

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570600355
法人名	医療法人 杏林会
事業所名	グループホーム みみつ
所在地	宮崎県日向市美々津町3870 (電話) 0982-58-0311
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年9月5日

【情報提供票より】(19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 13 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 杏林会 三股病院 三股病院歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日向灘を見下ろし遠く灯台が見える小高い丘の上にあるホームは、病院に隣接する和風の建物で、内部は明るくゆったりとしている。地元貢献をすることを目的として、地元からの職員を採用しているため、職員と入居者、デイサービスの利用者とも馴染みの関係も出来やすく、地域との関係も地域に密着したサービスを行っている。また、職員が一人ひとりの身体機能の維持に積極的に関わっており入居者は皆生き生きとしている様子が見られた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題の取り組みとして、①ホームへの案内看板の設置、②相談苦情の第三者受け付け窓口の案内、③職員も入居者と一緒に食事を楽しみながらとる工夫など改善へ向け取り組まれている。自己評価表を職員や来訪者にも自由に読めるようにしており、外部評価で指摘を受けた部分は、運営者、管理者、職員と話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組みは、限られた職員で記入し、他の職員には事後報告をすることとしているが、職員全員が評価の意義や目的を理解し更なるサービスの質の向上に努めることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年度はまだ開催されていない。2ヶ月に1回、定期的に開催できるよう取り組んでほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2~3ヶ月に1回ホームだよりを発行し、家族に送っている。誕生会の様子や職員の異動などカラー写真いりで紹介されている。意見や苦情は家族の面会時などに聞き、できるだけその要望に応えるように努力している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児が折り紙を教えてくれたり、運動会に招待されるなどの交流をしている他、地区のお祭りの踊りをホームの庭でもらったり、また、ボランティアの人が大正琴や生け花を教えに来ているなど、地域の人々との交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく、生命、尊厳、個性を尊重し地域に開かれ共に歩むグループホームを目指す理念を基に支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ヒヤリングからも理念を念頭に日々のケアに取り組んでいる様子が窺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児が折り紙を教えてくれたり、運動会に招待されるなどの交流をしている他、地区のお祭りの踊りをホームの庭でもらったり、また、ボランティアの人が生け花を教えに来ているなど、地域の人々との交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員や来訪者にも自由に読めるようにしており、外部評価で指摘を受けた部分は、運営者、管理者、職員と話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用状況等を報告して、話し合っているが、まだ十分な話し合いが出来ているとは言えない。	○	運営推進会議は、今年度はまだ開催されていないため、2ヶ月に1回は開催し、評価への取り組み状況や改善された内容等を報告し、サービス向上に向けての意見を活かせるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と出来るだけ行き来する機会をつくりたいと考えているが、まだ実現できていない。	○	自己評価・外部評価の報告や相談などの取り組みから、市町村担当者との連携づくりを行ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や必要に応じて電話で報告したり、ホーム便りを2ヶ月毎に家族に送り、暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等を報告している。	○	家族からの預かり金については、金銭出納簿で管理し、領収書・残高等について家族に報告しているが、残高額によらず、定期的に報告し家族に確認をもらうようにしてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、相談、苦情窓口を記載すると共に、面会時等にも家族等からの意見や不満、苦情を聞くようにして対応している。第三者委員も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の看護と介護の違いはあるが理念にそって入居者の尊厳、個性を尊重した対応に努力をし、ダメージが無いように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の研修や法人内外の研修にも参加している。働きながら資格を取る職員の勤務を学びやすいように考慮している。毎月の法人内勉強会で受講した研修内容を発表し、ホーム内でも職員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と月に一回会議を設けたり、見学交流する機会を設けている。県内の研修会等にも参加してサービスの向上の取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し利用で一日体験して頂いたり、本人、家族の訪問や見学はいつも受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で、昔の事や調理方法等を教えられ、慰められたり励まし合ったりして入居者と職員は寄り添いながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や、日ごろの行動で本人の思いや希望を把握し、家族からも意向を聞いて、センター方式を取り入れて、本人、家族の思いを職員全員で共有したいと思っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全員ではないが、センター方式を使用して、職員全体で、(私の気持ちと姿のシート(C-1-2))を書いてもらい職員のカンファレンスで話し合い、本人家族にも聞くようにして介護計画に取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月のモニタリングを行っている。半年毎のプラン見直しと、状態が変化した時にはその都度プランを見直している。	○	状態変化がなくても、介護計画は家族や本人に聞いたり、職員に気づき等を確認しながら、1ヶ月に1回はモニタリングを行い、3ヶ月ごとに、介護計画の見直しをすることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	4月よりデイサービスを開設、在宅生活が困難な人に通所を利用し個別対応をしてもらうことで、精神的な落ち着きが見られ、喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホーム母体の病院が主治医となっているが、専門外の受診を必要とする場合等は、家族や職員が受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、また、機会ある毎に重度化した場合の意向を家族に聞いている。また関連病院と適時相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の一人ひとりの対応は物静かでやさしく、排泄の誘導時も、本人の機能維持に配慮しながらさりげなく強要せず、本人の意思を尊重して行っている。また、個人情報等守秘義務は、事業者と契約を取り交わし守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事等、全員でする行事(体操・レクリエーション等)も、本人のペースに合わせて、休みたい方、見学する方等、自由にされるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ささがき牛蒡を作る人、人参の皮を剥く人、その人に応じて、職員と一緒に調理の準備や盛りつけを生き生きとしている様子が窺えた。また、献立も入居者の希望を取り入れながら作っている。職員も利用者と一緒に食事を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日でも入れるように沸かしてあり、14時からの入浴となっているが、一人ひとりの希望にそった入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、洗濯物干しやたたみかた、調理の下ごしらえ、食器洗い等、その人が得意とすることをしている。また、生け花、歌や踊り、風船バレーなどを行い楽しみや気分転換の時間を持っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節毎に花見やブドウ狩りに出かけたりしているが、希望があれば、馴染みの店に買物に行き、気分転換を図っている。ホームのベランダや庭から、海や灯台が眺められ、入居者が「海も山もあっていいところよ」と話される。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることで管理されていると思われるより、玄関にも鍵をかけずに自由に外に出られるようにしている。センサーがあるので感知したときは職員がそれとなく外に出て、話を聞くようにしている。夜間のみ鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回行っている。また、地域の消防団へも協力の要請はしている。10月は隣接する同法人の病院と合同で火災発生を予想した避難訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考慮した、その人に合った食事量を職員が把握しており、声かけて促したり、ゆっくり食事ができるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に全員が集まっているが、デイサービスの人も一緒に、ソファに寄り添って、地元の人同士話が弾んでいる。廊下は広々として、手すりが取り付けられており、浴室も脱衣所も入居者に配慮された造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた、たんす、仏壇、ベッド 椅子等を持ち込まれて壁には、家族の写真を貼るなどその人らしい生活の場となっている。		